

生きづらさを抱える人とご家族の居場所『みんなのE場所』

イキル応援プロジェクト Life Power

 コース
初動事業

申込内容

■事業の概要

生きづらさを抱える当事者や、当事者のご家族の心の負担を軽くする為の居場所づくりをしています。専門家の話を聞いたり必要なサポートを知る機会を多く設けたり、必要な人が必要なサポートを選択できるようにしていきます。

■目的

うつなどで社会参加が難しく自己否定感の強い当事者たちが、自己肯定や自己決定を可能とし、自分の人生の選択を自分の為に自分で決定できるよう応援（エンパワー）し、自ら命を絶つ人のない明るい社会をめざします。

■交付決定額 92,000 円
 （事業予算 123,110 円）



◎活動の様子



9月20日「みんなのE（居）場所」が蛍池公民館で開催されました。今回は、市の出前講座を活用して「顔見知り・つながりづくり体験」をテーマに、ラウンドテーブル（井戸端会議）が行われました。参加したのは、生きづらさを抱えている人や家族などの4人で全員が初参加。「どんなことをするのかかわからずに参加した」という不安の声があがるなか、市職員からラウンドテーブルのねらいや進め方のレクチャーを受けた後、いよいよ実践が始まりました。

テーマは「コミュニケーション」について。探り探りスタートしたラウンドテーブル。「人とコミュニケーションをとるのは苦手」「人に興味がないし自分のことも放っておいてほしい」ぽつりぽつりと言葉が発せられます。穏やかな沈黙の後、しばらくしてから「そもそも誰にも興味を持たないなんて本当にあるのだろうか」という問いが投げかけられます。はじめは聞き役にまわっていた参加者が、会の終わりには自分の意見をゆっくり話す光景が見られるなど、日ごろ感じている思いを参加者どうし伝え合う居場所になりました。

また同時に、ひきこもりや社会的支援を必要とする若者支援事業をしている市の職員から市の取り組み紹介が行われるなど、情報提供の場にもなりました。

「今日は、初対面の人たちばかりの参加でしたが、かなり深い話し合いができました。他にも外に出ていきたい人はいっぱいいるのだろうと思います。これからもどこかでつながっていければいいなという思いで活動を続けていきます。」と代表の横山留美子さんは話します。

今後も、生きづらさを抱えた人と家族のため事業を毎月実施予定です。

◎リンク

▼[イキル応援プロジェクト Life Power ホームページ](#)

